

## 冊子「子どもの救急ってどんなとき？」を紹介します

お子さんを育てているご両親の皆さんは、夜間や休日にお子さんが病気になって、慌ててしまった経験が一度か二度は、おありだと思います。しばらく様子を見て良いものなのか、すぐに医療機関を受診した方が良いものなのか、悩んでしまいますね。そんな時に、手元に置いておくと便利な冊子をご紹介します。

群馬県が発行している「子どもの救急ってどんなとき？」です。この冊子は、「熱」や「嘔吐」など、お子さんの症状別に、どのように対応すればよいか具体的に記載されています。このような状態であれば「しばらく様子を見て大丈夫」、このような状態であれば「早めに救急外来を受診」ということが、細かく記載されているのです。また、それぞれの症状のときに、どんなポイントを注意して観察すれば良いかも記載されています。

また、病気のお子さんは、熱が上がったり、下がったりと変動することは御存知だと思います。冊子に掲載されている体温表は、是非何枚かコピーしておいて下さい。熱があったらグラフに記入しておき、医療機関を受診する時は、記入した体温表を持参して下さい。この体温表があると、外来の医師の診療がとてもスムーズになります。

インターネットが使える環境であれば、群馬県の県庁のホームページに行き、「子育て・教育・文化・スポーツ」>「子育て・青少年」>「子どもの救急・医療」>「子どもの救急ってどんなとき？」で、この冊子を読むことができますし、PDFファイルでダウンロードして印刷もできます（無料）。桐生厚生総合病院でも、この冊子を購入することが可能で、一階外来の受付正面で10円で購入ができます。

また、群馬県の事業で、「小児救急保護者講習会」を行っています。いままでに桐生地区で二回開催しており、私が講師を勤めました。これは、この冊子「子どもの救急ってどんなとき？」をテキストに、スライドを使い講義をしています。機会があれば、今後も継続していきたいと考えております。



【中央検査部長兼小児科部長 針谷 晃】

